

授業科目名	書写・書道 (2100135)		
時間割名	書写・書道 (34111)		
時間割担当	小竹光夫		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	水・4		

授業の目標・概要

本講義では、「書写・書道入門」で理解した事項の内、硬筆と毛筆の関連学習を中心に実践的に学習する。中でも教材分析を行う力を育成し、文字の捉え方、表現の仕方について考える力を育成する。さらに、教員として教育現場の文字環境を整えていく上での基礎的な教養を、文字への興味関心を高めながら習得できるようにする。日常の書写力低下が問題視される昨今、生徒の実態の分析・把握と毛筆・硬筆の関連性についての考察と実習を重点的に行う。

学習の到達目標

対象となる文字言語の歴史、特性、機能についての知識を習得し、伝達効率を高めるための文字表現（技術・技能）の在り方や効率的で日常に生きて働く書写の力について理解する。特に初等教員が関わる国語科書写での学習指導の観点や方法、教材分析については、授業実践の方法や身近な文字環境への関心を深め、幅広い意識の高揚を実現する。

授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2.必要に応じて、取り上げる内容に関する実証的なドリル（簡単な実技的試み）を行う。

授業計画

- 第1回 「書道」とは違う、「書写」という耳慣れない言葉をめぐって...それぞれの内容や目標の違いを知り、そのことによって生じる現代的諸問題について知識を広げる。
- 第2回 教育課程の流れから、現在の状態までを簡単になぞってみよう...幼稚園から高等学校までの過程の中で、どのように文字言語と接近しているか概略を理解する。
- 第3回 「文字感覚」とは何だろう。どうやって形成されていくのだろう...「言語感覚」に繋がる「文字感覚」、文字認識について基礎的な知識を習得し、理解を深める。
- 第4回 「書写」とは、どの程度の範囲をカバーするのだろうか...一般社会の中に流通する「習字」という語を巡りながら、我々が関わる「書写」が求めている力について考える。
- 第5回 「イメージ」・「視覚」ということについて...視覚言語としての特性について考え、特性と問題点について学校という場で考えをまとめる。
- 第6回 遙かなる漢字への旅、平仮名、片仮名の書き方への道のり(1)...中国や日本での漢字文化の特性について考え、併せて歴史的な流れの中での位置付けを考える。
- 第7回 遙かなる漢字への旅、平仮名、片仮名の書き方への道のり(2)...渡来した漢字文化を発展させ、独自の言語文化を生じさせた日本で文字の歴史について考える。
- 第8回 遙かなる漢字への旅、平仮名、片仮名の書き方への道のり(3)...日本語の日常表記である漢字仮名交じりの、伝達における機能性の知識を広げ、理解を深める。
- 第9回 「正しい」という言葉の指し示すもの...小・中学校の国語科書写の実態把握と、指導にあたっての必須要件を知り、具体的な学びを知る。
- 第10回 字形・筆順・運筆の相関について...「書く」という行為の中で、求められる能力を考え、効率的な習得法について考える。
- 第11回 「書写」や「書道」の用具・用材について考えよう...硬筆書写と毛筆書写の相関の必要性について考え、学習に必要な用具・用材への理解を深める。
- 第12回 新しい書写指導のあり方と方法について...総合的な学習への取り組みを含め、現代生活における「文字を書くこと」の意義と価値を考える。
- 第13回 新しい書写教育の動向と研究分野...文字の書き方学習だけにとどまらない、言語教育につながる新しい書写教育への理解を深める。
- 第14回 身近な文字文化への関心と取り組み...文字を中心とした地域社会や文化とのつながりを考え、データ収集や研究の方法について考える。
- 第15回 授業の総括として、これまで身につけたことについてまとめる。

成績評価の基準

毎回の授業中に行う小レポートと毎回の課題レポートを中心に、授業に対する理解度を観察し評価していく。(50%)学習記録ノート(学生作成)の緻密さなどを評価する。(30%)授業内での口頭発表を観察し、理解度やまとめる力について評価する。(20%)

準備学習・復習及び授

- ・参考図書等については教員側で紹介するので、可能な限り入手して、積極的な学びを展開することを期待したい。
- ・文部科学省編『中学校学習指導要領 国語編』を準備しておくことが望ましい。
- ・日常的に文字言語や文字環境に関心を持つよう指示を与え、文字に関する時事問題をピックアップしておくことを求める。

履修上のアドバイス及

義務教育段階での文字習得と活用の重要性気付き、文字を自在に生かすことができる日常生活を、自らが率先して実行できるようになって欲しい。学びの基本は、興味関心に支えられた意欲である。

教材・教科書

毎時、担当教員が資料を作成し、学習を進行するので、特別な教材・参考書は必要としない。ただ、教員としての進路を持つ場合は、各人の進路に応じた学習指導要領を読解しておくことは必要である。

参考書

各校種に応じた学習指導要領、ならびに解説を準備し、読解しておくことが求められる。学習事項・内容を拡大していく上での参考書類については、各授業の中で紹介する。